

胃酸の逆流が原因

逆流性食道炎は、強い酸性の胃液や、胃で消化される途中の食物が食道に逆流し、そこにとどまるため食道が炎症を起こし、粘膜のただれや潰瘍を生じる病気です。

食道には、胃酸に対する防御機能がないため、胸やけや胸の痛みどんざん呑酸などの不快な症状の原因となります。

逆流性食道炎は、もともと日本人には少ない病気でしたが、食生活の変化などによって増加傾向にあります。胸やけなどの症状は不快なものですし、他の意外な症状が逆流性食道炎によって起きていることもあります。

また、逆流性食道炎を治療することは、食道の粘膜が胃の粘膜に変性するバレット食道、食道ガンなどの合併症の予防につながると考えられているので、例えはつきりとした症状を感じていなくても、逆流性食道炎の炎症の治療に取り組むことは大切なことです。

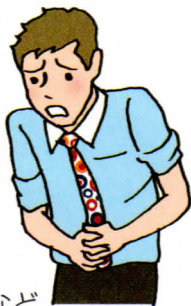
ストレスと逆流性食道炎の関係

強いストレスは胃炎や胃潰瘍、下痢、便秘など胃腸のさまざまな病気の原因になりますが食道も例外ではありません。ストレスが溜まると、胃酸過多と同時に下部食道括約筋（胃液が食道に逆流しないようにしている器官）の機能が低下し異常に増えた胃液が食道へ逆流し、すっぱさや胸焼けを感じます。



逆流性食道炎の疑いがある症状

- 胸やけ
- 呑酸どんさん（口に広がる酸っぱい液）
- お腹の張り
- 胃もたれ（重苦しい）
- 頻繁にげっぷが出る
- よく咳き込む
- 胃の痛み
- のどの違和感（イガイガ感・ヒリヒリなど） など



気になる項目がある場合、薬による治療によって症状が良くなることもあるので、早めに医師に相談しましょう。